

小学校におけるクラブ活動とネイチャーゲーム

冬柴 豊

分野の今日的な概要

来年度以降「新学習指導要領」の完全実施に向けて、英語・国語・理科などの充実と引き換えに総合の時間削減などの改訂がされます。「クラブ活動」の時間は学校によって様々な時間配分がなされているかと思いますが、決して無くしてはならない活動であると思います。その重要性を訴えていく必要があります。

分野を理解するキーワードとその説明

自然体験活動は学校の教科や行事との重要な関連がある。(生活科・理科・社会科・国語科・自然教室・遠足など)

事例の概要

鈴鹿市立旭が丘小学校では、年間7回のクラブ活動の時間を木曜日の6時間目(45分)に設定している。(5、6、10、11、12、1、2月)対象学年は4、5、6年である。私が担当している「自然観察クラブ」は赴任前にはなかったが、希望を出し発足した。今年度で3年目を迎えた。今年度は4、5年生21名で活動している。

事例の内容

●ねらい

旭が丘小学校は住宅地の真ん中に建つ、児童数927名の市内最大の児童数の学校である。校内の自然環境には恵まれず、わずかな樹木や草地や学年園があるだけである。そこで、子どもたちに少ない自然環境の中で少しでも楽しい体験活動を味わってもらいたいと考え、ネイチャーゲームをプログラムを活動の中心に据えて活動してきた。

●実施アクティビティなど(予定)

5月…部長など役員決め、「はじめまして」

6月…「フィールドビンゴ」

10月…「フィールドパターン」

11月…「落ち葉ビンゴ」「落ち葉キャッチ」

12月…「落ち葉ジャンケン」「宝さがし」

1月…「学校の設計図」

2月…「学校の設計図」の発表とクラブ文集作り

●参加者の反応

毎回感想を書かせ、廊下のクラブ掲示板に掲示している。11月の活動では、「学校の校庭にもいろいろな種類の葉があるんだなあ」「モミジの葉の色が濃いのは冬が近いからかなあ」「季節が変わると葉の色も変わるんだなあ」「今まで知らなかった木や葉っぱの種類があった」などの感想があった。

分野におけるネイチャーゲーム実践のポイントと留意点

4月最初の職員会議で、クラブ活動の位置づけがある場合、積極的に提案していくことが大切である。校庭での自然体験活動は、安全でしかも大変楽しく充実感の味わえる活動である。

活動の評価

子どもたちから「来年もこのクラブに入りたい」「次のクラブは何をするの」など、喜んで活動してくれた。家庭でも「家族で公園に出かけて、ビンゴゲームをやってこんなの見つけたよ」などの声も寄せてくれた。

今後の課題

転勤するときに、次年度も継続してこのクラブが活動できるよう後継者を依頼しておきたい。

写真，プログラムシート



分野を学ぶための参考資料

- ・中山康夫＋宮下健一著「ビンゴで野あそび」 萌文社
- ・(社) 日本ネイチャーゲーム協会著「学校で役立つネイチャーゲーム 20 選」 明治図書
- ・(社) 日本ネイチャーゲーム協会著「小学校の授業に生きるネイチャーゲーム」 ネイチャーゲーム研究所 など

その分野に関係する主要団体

- ・都道府県政令指定都市教育委員会および小中学校校長会
- ・自分の住む地域の小学校など